



No. 28

RSCDS 東京ブランチ95年度会員登録更新のお願い

恒例のRSCDS 東京ブランチ会員登録更新の季節です。ご友人お誘いのうえ、登録更新をお願い申し上げます。

- 1. 締切日 4月28日(金)……消印有効。
申込書を整理し、新会員数と名簿を5月末着となるよう本部に送ります。
2. 同封の郵便振替用紙をつかって、またはご家族でお申し込みください。やむをえずまとめて申し込まれる場合でも、全項目を記入した郵便振替用紙をセクレタリまでお送りください(事務処理上、1人1枚のほうが効率よいため。リスト形式は不可)。必要項目が記入されていれば、郵便局そなえつけの振替用紙でかまいません。

振替口座番号 00160-9- 64023

加入者名 RSCDS東京ブランチ

振替用紙に郵便番号・住所・氏名・電話番号の記入をお忘れなく。金額らんには「〒」や「金」の文字を記入しないでください(機械読取りのため)。払込みの控はブランチ年会報発行(7月)まで保存してください。

- 3. 会費額 つぎのいずれかひとつの金額です。
年次会員登録 ..... 2,800円(¥1,400 + ¥1,400)
長期(10年)会員新規登録..... 15,400円(¥14,000 + ¥1,400)
長期/終身会員継続 ..... 1,400円(払込済 + ¥1,400)
\*カッコ内前段・本部会費 ..... 1年¥1,400・10年¥14,000
後段・ブランチ会費 1年¥1,400
(ブランチ会費は1年のみで、ことしから¥1,400となっています)

ブランチ会員は無事 <阪神大震災>
1月17日の阪神大震災、神戸地区の東京ブランチ会員9名は全員無事でした。ただし家の半壊、水道・ガスの供給停止、夜のこそ泥被害でみなさん不便・不安な避難生活を強いられており、こころからお見舞い申し上げます。ブランチでも会員から義援金をつのり、9名のかたにささやかながらお見舞いをさしあげることにしております。
9名全員無事を RSCDS本部に報告し、2月11日の総括委員会で本部も安心したとのことです。

4. RSCDS 本部に直接会員登録した長期会員であって、ことしから東京ブランチ経由に登録を変更されるRSCDS 会員は、混乱を避けるために移籍について所属グループ責任者の同意を得、「移籍申込書」をセクレタリに提出していただくことになります。
5. ことしはブランチ全会員にポケット版のBook 36-38をお送りいたします。これが不要な場合は、べつのBook No.をお書きください(どのBook、ポケット版でもかまいません)。
6. 締切日までにお申し込みがない、あるいは申込書が少々不完全でも、お問い合わせいたしません。
7. 長期会員であって、SCDへの関心・情熱のうすれたかたは、セクレタリに「やめます」とお知らせいただけると幸いです。また、東京ブランチが発行する日本語資料は、ブランチ年会費が払い込まれた後の発行分からお送りいたします。

#### グループ名簿のデータ見直しのお願

ブランチ年会報の"Scottish Country Dance Groups in Japan"に記載するため、昨年と同様、グループ連絡先のかたに返信切手つきで記入用紙をお送りしました。所定事項ご記入のうえ、セクレタリにお返しく下さい。データに変更がなければ「前年からの変更なし」で結構です。

年会報にのせたいお知り合いのグループがあれば、記入用紙をコピーされ、おなじようにセクレタリにお送りください。

#### ブランチ初夏合宿と年次総会

「トンネルを抜けるとSCDであった……」東京ブランチ1995年次総会(AGM)は、初夏合宿を兼ね、1泊2日・越後湯沢で開催いたします。

日 時: 95年6月17日(土)午後~18日(日)午前  
 場 所: 越後湯沢郊外・和田ロッジ  
 会 費: ¥12,000  
 内 容: 年次総会・インフォーマルダンス・講習(講師:松橋順子・岩崎誠司さん)  
 定 員: 50名(先着順)

案内書は、本レター同封の◆95年度 RSCDS東京ブランチ会員登録申込書◆の年次総会らんに「出席」と記入された会員に、別途お送りいたします。

#### 会員名簿変更

大西弘美	578	東大阪市王串町東 3-2-33	0729-66-1094	(転居)
増本サチ子	162	新宿区原町 1-16/703	03-3357-4776	(一時転居)
吉沢敦子	300	土浦市中 1319-11	0298-41-0767	(転居)

### 第3回スコティッシュ・カントリー・ダンス・フェスティバル・イン東京

東京都フォークダンス連盟主催による第3回SCDフェスティバルがつぎのとおり開催されます。SCDをもっと多くの人に楽しんでいただきたい、ソシアル・スピリットをもっと知っていただきたい、技量を伸ばせばもっと楽しくなる、そのようなことを東京ランチ会員自身が発揮できるよい機会です。たくさんの会員のご参加を期待しています。

日 時：95年5月28日(日) 午前10時～午後4時

場 所：東京都体育館

会 費：1、300円(前売り1、000円)

内 容：午前・講習 松橋順子さん・佐藤仁美さんの講師で Lamb Skinnet(32J)、Rakes of Glasgow(32S)、Montgomery's Rant(32R)の3ダンス。

午後・ボール、東京ランチメンバーによるデモンストレーションなど。

問合せ：セクレタリまで

### 10周年記念ダンス講習会レポート

1月29日(日)午後、東京・神田の千代田区総合体育館で10周年記念ダンスからの講習会が開催されました。作者みずからの指導により32名が"Bourrel", "Petronella in Tandem", "Link for Three"など真新しいフォーメーションの入ったダンスを楽しみました。ダンスと講師名はつぎのとおりでした。

East of the Sun	……鳥山豊喜	Tom's Delight	……鳥山豊喜
Izayoi or 16th night	……林 浩子	Oh! Flowers	……渡辺清一
A Fair Wind	……松岡重希	A Rosebud in my Garden	……稲垣 俊
Kurazukuri	……星野 薫		

### 第8回ランチ合宿レポート

アメリカから Ellie & Mel Briscoe夫妻、ミュージシャンの"Terpsichore" (Elke Baker & Liz Donaldson)をむかえて、3月25日・26日の2日間、神奈川県綾瀬市の石川島研修センターにおいて第8回東京ランチ合宿を行ないました。みぞれまじりの雨が降る悪天候でしたが、なるほどと思わせる Briscoe夫妻のティーチングと、迫力ある"Terpsichore"の音楽に99名の参加者は存分にSCDを研修し、エンジョイしました。

第1日目の午後は、海老名市かしわ台駅そばの柏ヶ谷小学校体育館で全体研修を行ない、夜は研修センターに移ってインフォーマル・ダンシングという日程でした。柏ヶ谷小学校では寒さと基礎的なステップが中心であったため、研修生の盛り上がりはもう一つという感じでしたが、インフォーマル・ダンシングでは"Terpsichore"の熱演に、夢中になって踊った2時間でした。そのあと、静かに小人数でSCDへの情熱を語り合ったグループもあれば、ミュージシャンも加わって明け方3時まで歌い、さわいだ研修生グループもあったとか。

第2日目は2班にわかれて Briscoe夫妻指導によるダンシング研修です。生演奏つきというのがすばらしいし、ちょっとひねった踊り・意外性のある踊りで、SCDの多様性をあらためて感じました。いろいろな踊りがごっちゃになり、掃りの車中ではその解明に話しの花が咲いたグループばかりでした。午後の1時間は踊りもまじえてスコティッシュ音楽の講義。ストラススベイにも、適する音源とそうでないものがある、というのがこの講義で体験できたと思います。



熱演するエルカとリズ



4人の講師とランチスタッフ

柏ヶ谷小学校体育館と楽器を手配していただいた加藤沙彌子さん、多用中の身を音響セッティングのためだけにかけつけてくれた稲垣俊さん、音響器材の後始末をひきうけていただいた小橋正明さん、講師案内役の櫻井香枝さん、ありがとうございます。

研修生の感想は、

- がっちりした基礎ステップ研修を期待していたが、今回はソーシャル・ダンシングが主になったようだ。
- 講師やミュージシャンは一流であった。しかし、ランチにもいろいろなひとがいるとつくづく感じた。たとえば姿勢、フレイジングなどもっと良くなってほしいと思われる会員もいるし、ガムを噛みながら踊るなんていうひともいた。こういうのは合宿以前の問題で、グループのリーダーは、例会でこういったことをしつこく指導してもらいたい。
- いつもなら基礎ステップに注力するため、こんどもしごかれるのではないかと思っていた。ランチ合宿といえど、そろそろ基礎ステップから脱皮してもいいころと思っていたので、大いに楽しんだ。
- 音楽の迫力という点ではマコーエン合宿や昨年のジェニファーのほうが印象にのこる。今回はきれいな演奏であったため、自分の要求がぜいたくになってきたせいかもしれない。
- はじめて参加したが、リールとジグの区別などピアノを十分に活用して実際にやってみて、うなづくところが多かった。
- 生演奏で踊ってみて、SCDのすばらしさをあらためて感じた。楽しかった。

研修曲はつぎのとおりでした。

Ellie's Jig	.....	H. Briscoe	Dundee City Police Jig	.....	J. Mitchell
Argyll's Bowling Green	...	Book 15	Fireside Reel	.....	18th C. Bk
Auld Lang Syne	.....	Book 27	* * * *		
Lauderdale Lads	.....	J. Duthie	Yellow Haired Laddie	.....	Book 12
* * * *					
Whiteadder Jig	.....	H. Johnstone	Flock of Geese	.....	H. Briscoe
Many Happy Returns	.....	H. Briscoe	Marcat Cross	.....	J. Dickson
Hopetoun House	.....	Archives	Off She Goes in the North	...	Book 18
May Flower Jig	.....	H. Briscoe	Irongray	.....	H. Foss
Anna Holden's Strathspey	...	Drewry	Davy Nick Nack	.....	R. Campbell
			Links O'Forth	.....	R. Campbell

## AGMおよびECMLレポート

東京ブランチのスコットランドにおける代表者であるクレメント篤子さんから、昨年11月に開催されたRSCDS Annual General Meeting年次総会と Executive Council Meeting執行評議員会のレポートをいただきました。なおクレメント篤子さんはことしからセントアンドルーズ RSCDS サマースクールのティーチャーになっています。

### 1. AGMレポート

1994年のAGMは、パース・ブランチがホストとなって11月4日・5日にベル・スポーツセンターで開催された。4日(金)午後8時半、バグパイプ・バンドの演奏のあと、RSCDS チェアマンとパース・ブランチ・チェアマンを先頭にグランド・マーチで700人のダンサーが続き、"Round Reel of Eight"でジム・ベリー・バンド演奏のボールが始まった。

5日(土)はオープン・フォーラムからスタートした。ほとんどの時間が午後のAGMでとうざされるチャリティ法改正案にともなう質疑に費やされた。11時から、パース・ブランチ・ティーチャー、ミセス・ゴールとアコーディオニストのジョン・エインズリーによる1時間強のレッスンが行われ、約250人が参加した。

AGMは2時半から開始された。会長マンスフィールド卿欠席のため、チェアマン、ミス・ウィルマ・ミラーが議長を務めた。このAGMが彼女にとって任期最後のAGMである。思いを遂げたところと、まだまだやり残したことがある、と230人の代議員と多数の傍聴者にあいさつした。ついでセクレタリから、ソサエティ総裁のエリザベス女王からのメッセージが読みあげられた。

議事は予定どおりに進められ、昨年(1993)のAGM議事録が採択された。会長にマンスフィールド卿(再任)、副会長にミス・フローレンス・アダムズ、ドナルド・キャメロン卿、ミュリアル・ギブソン女史、グレンコー卿が再任された。さらにビル・クレメントが推薦したモンククリーフ(スコットランド)のペリグラン・モンククリーフ氏が、副会長として認められた。

1994/95年度のソサエティ役員は、つぎのとおり選出された。

チェアマン: ジョージ・ローソン(単独推薦)

副チェアマン: ビル・クレメント(立候補5人)

執行委員: アリスティア・エッキンヘッド、ドロシイ・ハミルトン、ノーラ・ダン、アラン・メイヤー、クリスチャン・カトゥ、スチュアート・アダムの6人。

1994年RSCDS Bulletinの年次報告と会計報告の説明があり、いくつかの質問のあと承認された。

決議案(a)はソサエティに理事を導入する提案であったが、新規約検討小委員会からのものであったため、「年次総会への議案提出は、ブランチまたは執行委員会からのみ」に反する、との意見で取り下げられた。

同様に決議案(b)もロンドン・ブランチの委員会からの提出で、ブランチ年次総会の承認を得ていないとの理由で取り下げられた。— ロンドン・ブランチの提案は、現規約では本部副チェアマンを3年務めたあと、ほぼ自動的にチェアマンとなってさらに3年務め、退任後も1年と、計7年間すべての委員会に出席し、責任を負うことになっている。7年間もの拘束は長すぎ、かつ他の委員の任期が最長5年となっているいま、これに足並みをそろえ2、2、1年のチェアマン任期に

しようという理にかなった提案であったため、取り下げは残念であった。

ソサエティ功労賞は、3人中2人がカナダ在住であったため、この場では東スターリング州ランチのフランシス・マーティンのみに授与された。

来年のAGMはエア・ランチのホストで、11月4日にトゥルーンで開催されることが確認され、ことしのホスト、パース・ランチにお礼が述べられて総会は4時すぎに終了した。

## 2. E C Mレポート

11月18日、ジョージ・ローソンが議長となって開催された。まずミリタリ・タトゥについてビル・クレメントから報告がなされた。タトゥのディレクター、マイケル・バーカー氏と2回目の会合を行ない、7チームによる各種デモンストレーション・ビデオを見せ、ソサエティの意図を伝えた。きちんとした踊りであっても、変化のある組み合わせができることを理解してもらえ、将来はソサエティの助言を得たいとの回答で、予想以上の収穫があった。

つぎに各委員会の議事録が承認された。以下に質疑の中で興味深い部分を紹介する。

- 総括委員会 外部への広報を目的とする小委員会の設置が決められたが、経費節減を掲げているのに小委員会を設けるとは………反対意見も多く、総括委員会で検討し直すことになった。
- 財務委員会 カンプリアのステプリイにおける資格試験実施に経済的な支援要請があったが、財務委員会はこれを却下した………ランチ主催でないこと、すでにコースが始まったあとでの申し入れであったことなどが説明された。
  2. 近い将来の会費値上げ方法に対し、年次会員と長期会員の期間、会費の有効期間などの質疑が行なわれた。英国では6月から9月まで夏期休暇でクラスも休みに入るため、現行の7月1日から6月30日という期間では会費が徴収しにくいという問題あり。
- 出版・調査委員会 英語以外の言語によるマニュアルの翻訳について、一度翻訳許可をあたえたと、別の国のグループから同じような要請があった場合も許可しなければならないし、翻訳を出したグループは、全世界から翻訳文をほしいといわれたら、半永久的にそれに応えなければならない。慎重に検討する必要がある。
  2. ストラススベイの Poussetteについて、いずれ一つの記述にまとめる方針が説明された。
  3. コリンズ社が出版計画しているSCDブックは、よく踊られている RSCDS以外のカントリー・ダンスやカップル・ダンスを含む予定であるが、ソサエティは RSCDSダンスのみに協力する。
  4. 委員会は将来LPは出さないことをきめたが、十分な検討がなされていないことが指摘され、この決定は執行委員会でなされるべき、という意見が出された。時代はCDに移っているとはいえ、せっかく整えた装置を簡単に変えることはできない、いまあるレコード財産を無にはできないという意見が多く、再度出版・調査委員会で検討するよう要求された。

○サマースクール委員会 ディレクターのマクファジェン博士の任期は1995年夏までであるため、各ランチに後任者推薦を求めていたが、ミセス・マージョリー・マクレエ（エディンバラ）を推薦するのみであった。そのまま承認された。

チャリティ法改正にともなうソサエティの方針について長時間の議論がかわされた。ソサエティからランチを切り離した存在とすることは、それが税務対策であったとしても、ミス・ミリガンが築いた"International Family"の精神が損なわれるのではないか、という危惧が多数のメンバーから表明された。

ソサエティのセクレタリ、ミセス・ムーアから個人的理由により退職要請があり、2月28日をもって退職されることが発表された。

\*\*\*\*\*

#### SCDクイズ (第4回)

柔道がいまや日本だけのスポーツでなくなったように、SCDも世界各地で踊られ、つくられています。つぎのダンスはどの場所、土地でつくられたでしょうか。答えをはがきを書いて、下記あてお送りください。正解1名のかたにビデオ『炎のランナー』をさしあげます。

(解答記入例: 1-A, 2-C, 3-A)

1. Reel of the Fifty-first Division.  
A. Scotland      B. France      C. Germany
2. Laird of the Milton's Daughter.  
A. Scotland      B. Canada      C. India
3. Balmoral Strathspey.  
A. Scotland      B. England      C. New Zealand

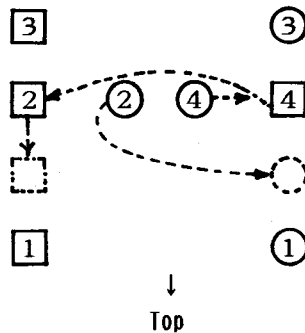
解答宛先: 222 横浜市港北区篠原北 1-28-25      鳥山とよき  
締切り: 95年4月30日(消印有効)  
発表: 次号ランチレター

『炎のランナー』は1981年のアカデミー作品賞・音楽賞その他をとった映画で、1924年のオリンピック英国予選からパリ大会決勝まで、2人の実在したスプリンターを対比して描いている。一人はユダヤ系の裕福なケンブリッジ大学生ハロルド・エイブラムス、もう一人がエディンバラ大学生エリック・リデルである。タイトルバックは選手団の練習光景で、このシーンを見るだけでもわくわくする。1945年2月、エリック・リデルは中国山東省の日本軍収容所でがんのために亡くなり、ラストの字幕『エリック・リデル 宣教師 任地中国にて死亡 全スコットランドが喪に服す』が日本人には重い。SCDファン必見の映画。

前号の第3回クイズ正解は「C」。正解者のなかからつぎのかたにカセットテープ“スコティッシュ・トランキリティ”をお送りしました。

角田真喜子(浦和市)・竹林悦子(与野市)・藤田みよ子(川越市)

- [解説] "The Glasgow Highlanders" で、
- i) Reel of four across は 8 bars でなく 6 barsで行なう。
  - ii) このReel of four across は Lower place で行なう。8回目、4th and 2nd cplsの場合は、3rd place でこれを行なうことになる。
  - iii) したがってBars 255-256では、右図のとおりとなる。



#### カナダTACサマースクール

Teachers' Association (Canada)カナダ指導者連盟からサマースクール1995の案内書が送られてきました。申込書ご入用の方はセクレタリまで。

日 時：1995年8月20日(日)～27日(日)

場 所：ブロック大学(オンタリオ州セント・カザリンズ)

会 費：560カナダ・ドル(¥45,000)

内 容：レベルに応じ、初級からチューター(受験者養成指導者)コースまで

締 切：5月19日

#### スコットランド・ダンスと歌の12日間

RSCDS東京ランチおよび(社)日本フォークダンス連盟の後援による12日間のスコティッシュ・ダンス研修旅行に参加しませんか。クレメント篤子さんならびに松橋順子さんが企画・同行いたしますので、英語に自信のない方でもスコットランドの歴史、自然とダンスを十分に楽しんでいただけたと思います。お申込みはお早めに。

日 時：1995年8月9日(水)～20日(日) 10泊12日間 成田発着

費 用：587,000円

内 容：ハイランドとローランドの観光・RSCDS サマースクールの見学とレッスン・各地ボールでのダンシング・エディンバラでミリタリタトゥ見学など。デラックス・クラスのホテルを利用します(サマースクールではセントアンドルーズ大学寮)。

募集人員：40名 (最小催行人員は30名)

主 催：東芝ツーリスト株式会社 運輸大臣登録 121号

締 切：6月9日(金)

お問合わせ、お申込み：東芝ツーリスト(株) 104 中央区銀座 6-4-4 (第2東芝ビル 4F)

tel 03-3574-8781 担当：前島さん



米国シンシナチ・ブランチのクラス(例会)は、3月15日(水)、市外クリフトンの英国国教会ホールで7PMから始まった。ホールにグランドピアノはあるが、テープ音楽によるクラスである。フローリングはよく磨かれていて踊りやすい。1時間のビギナーズクラスは2曲を踊る。ティーチャーはロバート・リーグさん。はじめは4人ほどであったが、このクラスが終わるころには4セットほどになった。

米国出張が急にきまり、ダンシングの機会があるかもしれないと、RSCDS Bulletinと靴をかばんにいれて出かけたのである。コネチカット州ハートフォードが第一の目的地で、そこからシンシナチ・ブランチのセクレタリ、エリザベス・ルッツォさんに電話した。水曜夜にクラスがあり、夫と車で出迎えにいくから、という気持ちよい返事だった。エリザベスさんは25歳までエジンバラ近郊にいたという。

シンシナチはオハイオ州の南端にあり、オハイオ川をはさんで対岸はケンタッキー州である。プロクター&ギャンブル社の大工場とGE社の航空エンジン工場がここにある。シンシナチ・ブランチのメンバーは約80名、今夜はその半数が出席している。

のこりはケンタッキー州ルイビルのパーティその他に行っているという。会場の片隅には北米各地のブランチやグループからのパンフレットがテーブル一杯にならべられていた。

男女の割合はほぼ同数、5人のティーチャーやダンスのうまい人もいれば、先週SCDをはじめたばかりの人もいる。両親または本人がもともとイタリア、アイルランド、イングランド、ポーランド、コロンビア生れだ、という人たちがSCDを楽しんでいる。北米ならではの特色であろう。シンシナチ在住の人ばかりではなく、時速130kmで1時間かけて車でやってくる(それも毎週!)会員も5~6人いるという。全会員とも距離、保安、利便性から、車以外では絶対にやっ

Cincinnati Class 15/3/1995

Program

- Kennedy Garden D. Bell
- Linton Ramble D. Bell
- Old Ireland J. Mitchell
- St Patrick's Day Book 3
- Jack on the Green 18th Cent.
- St Patrick's Jig J. Cosh
- Rhinns of Kells H. Foss
- Fair Donald Book 29
- Trip to Bavaria

J. Macgregor-Brown

てこない。  
ビギナーズクラスのあと、ティーチャーはデイル・バードソールさん("The Queen City Salute" Book 37の作者)に変わり、2時間半のソーシャル・ダンシングである。ぜんぶウォークスルーつき。ソサエティのダンスは少なく、初見の踊りが多かった。3月17日のセント・パトリック・デイにちなむ踊りなどがそうである。今夜のプログラムには"Turn Corners and Partner"が、これもかと思うほどよく出てきた。リーダーは説明書を手にして指導していた(これはあまりいただけなかった)。グリーンブック、つまりダイヤグラムを持っている会員はいないようであった。ティーチングについては東京ブランチのティーチャーのほうが、細かいところまで指導している印象をうけた。同年輩の会員でできているのが東京、十代から六十代の人々がまじりあっているのがシンシナチという違いがある。

シンシナチ・ブランチはじめての日本人というわけで、ことにティー・ブレイク時には皆さんから話しかけられ、歓迎された。おわりは「Haste Ye Back (Come back soon)」のことばに送られ、ふたたびルッツォ夫妻がホテルまで私を送り届けてくれた。シンシナチ・ブランチにはルッツォさんをはじめとしてだれひとり知り合いのいない私であったが、温かいところづかいにつつまれてダン

シングを楽しむことができた。SCDは国と文化の違いをのりこえる善意と友好の使者である（マクファジェン氏が述べたミス・ミリガンのことば）というが、今夜のシンシナチのクラスでそれをあらためて感じたのである。

#### 聖アンドルーがスコットランドの守護聖人になったわけは？

スコット族とピクト族の兵士を率いて、ピクト族のアンガス王は、アサルスタンが指揮するアングル族の大軍と対峙していた。8世紀のことである。決戦の前夜、アンガス王と兵士たちはひざまづいて神に必勝を祈願した。するとその夜、王の夢のなかに聖アンドルー（聖アンデレ、イエスの十二使徒のひとりでペテロの弟、イエスの弟子になるまえはガリラヤ湖で漁師をやっていた）が現われ、勝利を約束したのである。

翌朝、青空にくっきりと大きな白い十字架が浮かんでいた。スコット族とピクト族はこの勝利の前兆に勇気百倍し、勇猛果敢に闘った。それ以来、聖アンドルーはスコットランドの守護聖人となり、空色の地にXの白十字がスコットランドの旗に選ばれたのである。

東ロージアンのアサルスタンフォード Athelstanfordの村が、アサルスタン戦死の地として知られている。この由来が忘れられないよう、1200年も前からアサルスタンフォード教会にはいつも聖アンドルー十字 St. Andrew's Cross がひるがえっており、教会敷地には記念碑とブランク（碑文）があつて、スコットランド旗の物語りがさざまれている。毎年11月30日直前の日曜日、アサルスタンフォードを訪れた参拝者は聖アンドルーの故事を語り、しかもこの小さな村で、どのようにして聖アンドルー十字旗がスコットランドの旗として定められたかを述べるのが習わしとなっている。

#### 新カセット紹介

##### 1. "East of the Sun" by Muriel Johnstone and Marian Anderson.

東京ブランチ10周年を祝ってロイ・ゴールドリングがこの踊りを提供してくれたが、ミュリアル・ジョンストン演奏によるカセットが突然送られてきたのはびっくり。ロイがミュリアルに頼んでできあがったというのが真相である。ミュリアルのピアノとマリアン・アンダソンのアコーディオンのデュオによる演奏。多重録音なので、できればはともデュオとは思えないくらいである。片面のみ1曲のカセット。ぜひお求めあれ。（注文略号：東の太陽 ¥700）

#### Group Notice Board

- ・ 4/16(日) 0:30-4:00 葛飾SDC 9周年パーティ・区総合スポーツセンタ・¥700  
尾身信晴 03-3697-5838
- ・ 6/25(日) 10:00-4:00 金沢SCDC 10周年ボール・センチュリーアラザ(清川町)  
¥10,000 申込み用紙をご請求ください・坂本一夫 0762-32-0469
- ・ 7/16(日) 10:00-4:00 大和SCDC サマーパーティ・茅ヶ崎市コミュニティホール  
¥6,000程度の予定 梶野幸雄 0466-44-3537

2. "The Barmkin, The Dancing Years and Other Leeds Branch Dances" by Muriel Johnstone and her Band.

Side 1 : Barmkin(88R), Minister on the Loch(32S), Ciamar a Tha(32J), Caretaker(32R), Auld Friends Meet(32S), Kingston Jig(32J)

Side 2 : South from Oban(40J), Walled Gatden(32S), Dancing Bees(32R), Cabrach(32S+32R) Dancing Years(88R)

北イングランドのリーズ・ブランチ制作による2本目のカセットである。六重奏のミュリアル・ジョンストン・バンドによる演奏。ミュリアル自作の譜を多く奏している。いまどきの標準的なSCD演奏方法を知るには絶好のカセットである。ロイ・ゴールドリングの踊りが主体で、トリッキーなダンスは一つとしてなく、だれもが楽しめる。全曲ダンス解説書つき。

(注文略号: リーズ・ダンス ¥1,800)

3. "Craigellachie in Oxford" by Craigellachie Band.

Side 1 : Togetherness(32R), Rigmarie(32J), Middleton Medley(16S+16J), Caberfrei(32R), Oh, Whistle and I'll Come tae Ye, My Lad(32J)

Side 2 : Diamond Celebration(32J), Ayers Rock(32S), Hairrit Man's Favourite(32R), Dancing Master(96J), Blue Mess Jacket(32S), Earlstoun Loch(32R)

ピアニスト兼アコーディオニストのイアン・ミュアが率いるバンド、クレゲラヒーがオクスフォード・ブランチの求めによって演奏、制作したカセット。M. ジョンストン・バンドとは音色が異なるが最近実力を発揮しだし、イングランドでは各地でボールの呼び物になっている。

Hairrit Man's .....は昨年来日したビル・アイアランドが得意とするリール。Dancing MasterはそのビルのためにドゥリーリがつくったSquare Form.の楽しい踊りである。Oh, Whistle .....はフレイジングのむずかしいジグで、踊り込むと楽しい。RSCDS のダンスが3曲録音されており、この3曲を踊るには当分のあいだこのカセットが必要である。

(注文略号: クレゲラヒー・バンド ¥1,400)

4. "Oxford Book of Dances 1993" by Ian Muir.

Side 1 : Champagne Reel(32R), Monday Night(32J), Blenheim Butterfly(32S), Suffork Lanes(48J), Road to Auchnafree(32R)

Side 2 : Garthmyl(32S), Diamond Celebration(32J), Polite Strathspey(32S), Radcliffe Square(64S+64R)

1993年、オクスフォード・ブランチは25周年を迎え、会員がつくったダンスを審査してシルバー・ジュビリー・ダンスブックを発行した。このカセットはそれらのダンスに適合するもので、クレゲラヒー・バンドのイアン・ミュアがピアノで多重録音している。リーズ・ブランチ・ダンスよりも意外性に富む踊りが多い。ダンスブックつき。

(注文略号: オクスフォード25年 ¥1,800)

上記カセットの申込み先: 郵便振替で 口座番号 00170-8-160278

加入者名 鳥山とよき

まで。価格は送料込みです。

事務局から

- RSCDS本部セクレタリのジョアン・ムーアさんが、この2月20日 RSCDSを退職されました。前任のミュリアル・ギブソンさんから引き継いで、6年間セクレタリを勤め、東京ランチもずいぶんお世話になりました。再婚されてヨークシャで新たな生活をいとなまれるとのこと、幸多かれと祈っています。後任はギル・パーカー (Miss Gill S. Parker)さんです。
- ことし(1995)の RSCDS年次総会は、エア・ランチのホストで11月3日(金)・4日(土)にトゥルーンで行われます。東京ランチ代議員として出席をご希望のかたは、7月末までにセクレタリまでご連絡ください。
- この夏 RSCDSがリリースする音楽、ビデオはつぎのとおりです。
  - CD: Book 12 - 17 および Book 27 - 36 から選曲したオムニバス盤3枚。
  - CDとカセット: Book 18。
  - ビデオ: マニュアル、つまりステップやフォーメーションなどをビデオ化したもの。
- LP化を中止することについて、英国内のランチでは異論が多いのですが、英国のレコード店へ行ってもLPはどこにもなく、RSCDS においてもCD化は時の流れといえましょう。価格・内容などくわしい情報がはいり次第、お知らせいたします。
- 10周年記念ダンスブックに関連し、13ダンスの音楽が欲しいとのご要望があります。技術的に1本のカセットにまとめるのは可能ですが、音楽には「著作権」があり、勝手にコピーするわけにはまいりません。個人で楽しむならともかく、ランチがコピーするには作曲者・演奏者・発売元すべての許可を得る必要があります。これはとほうもない作業・費用であり、東京ランチの手には負い兼ねるのが実情です。該当する音がなくても、各リーダーが最適と思われる別の音源を利用して、記念ダンスをお楽しみください。
- 第8回ランチ合宿で "Terpsichore" のカセット、CDをあっせんしました。収録ダンス中の "Long Pond Reel", "Ellie's Jig", "The Shattle Bus" についてはランチにダンス解説書がありますので、セクレタリあてご入用をお申し越してください。その際、80円切手を同封してくださいと幸いです。
- 本号の付録として、10周年記念誌4～5ページにある英文メッセージの日本語訳を同封しました。記念誌にはさみおきください。

RSCDS 東京ランチレター 1995. 4. 15号 RSCDS東京ランチ セクレタリ 掛川純子 0480-33-3494 345 号・宮代町宮代台 3-4-14
---------------------------------------------------------------------------------------------